

宗教倫理学会公開講演会

The Open Lecture of the Japan Association of Religion and Ethics

時間・記憶・他者

「時間は孤立した単独の主体の業績ではない。
それは主体と他者との関係そのものである。」(『時間と他者』)
これはエマニュエル・レヴィナスの言葉です。
何のことだかぜんぜんわかりませんね。
私も三十年ほど前にこのフレーズを読んだときは
意味がまったくわかりませんでした。
わからなかった理由のひとつは
「主体と他者の関係」というのを空間的に表象していたからであり、
もうひとつは「主体」が「私」で、
「他者」が「あなた」と解釈していたからです。
「私」と「あなた」が理解も共感も絶した対面状況にあるなら、
そこに空間的な隔絶はあっても時間は生成しません。
では、どうやったら時間は成り立つのでしょうか？

2006年3月4日(土) 13:30~15:30

**会場: キャンパスプラザ京都
2階ホール**

**プログラム: 講演・
パネルディスカッション・質疑**



◆講師

内田 樹氏 (神戸女学院大学教授)

- ◆司会: 棚次正和氏 (研究プロジェクト委員長・京都府立医科大学)
- ◆パネリスト: アンナ・ルツジェリ氏 (京都外国語大学)・高田信良氏 (龍谷大学)

宗教倫理学会 HP: <http://www.jare.jp>